推 薦 図 書

学　科：　文学部　人間関係学科	氏　名：　川場　隆
書　名：　太平洋	
著者・訳者：　ウィリアム・サマセット・モーム著　河野一郎訳	
出　版　：　新潮社　1960	

〈推　薦　文〉

大学のウェブ・サーバーの名前、知ってますか？sohseki（漱石）というのです。

http://sohseki.kwassu.ac.jp で大学のホームページが見えるはずです。メール・サーバは ohgai（鴎外）、そしてファイル・サーバーは maugham（モーム）でした（「でした」というのは、maugham はさる方の意向で russell（ラッセル）に変更させられてしまって･･･、いえ、ラッセルが嫌いだということではないのですけどね･･･）。

モームは医者で、劇作家で、小説家で、そして英国秘密情報部のスパイでした。007 を書いたイアン・フレミングが同じ頃に所属していたので、007 のモデルはモームであるという説もあります。かっこいいですね。スイス、フランス、イタリア、スペインなど世界中を旅行して、諜報活動のかたわら戯作や小説を書きました。若い頃のわたしは、「モームのように暮らしたいなぁ」とあこがれたものです。

モームは、南太平洋のほか、東南アジアや日本にも来ていて、名高いシンガポールのラッフルズホテルには、サマセット・モーム・スウィートという部屋があります。表題の小説の中には、そんな南の島のバーで、一人、ドライマティーニを飲むシーンがよく出てきます。それで、南の島に行った時、真似てみました。残念ながら、それほど旨くはなかったです。小説のように苦い味でした。南の島で旨いのはブラッディマリーですね（どうでもいいことですが）。

最近思うのは、どうも、いくら本を読んでも大したことにはならないということです（わたしだけかもしれませんが）。本は楽しいから読むわけで、読むとためになるというのは言い過ぎですね。本嫌いでも結構、本なんて、だいたい大して役にはたちません。そもそも、こんな推薦図書だって信用しない方がいいのでは？本は、いつか自然に読みたくなった時、自分の眼で探すのが一番です。そうすると、なかなか愉しいことに気付くかもしれません。

（福岡のホテルにて。 C・カッスラー「QD 弾頭を回収せよ」を読みながら。）